

令和4年度



SUSAP デンマーク・ フィリピンプログラム

事前研修：12月22日～2月17日

オンライン研修：2月21日～3月17日

事後研修：3月23日

【メンバー紹介】

A グループ (リ) はリーダー

- ・小柳菜々穂 医学部 3年 (リ)
- ・田中丸歩 農学部 1年
- ・西田彩乃 教育学部 2年
- ・伊賀滴 芸術地域デザイン学部 1年
- ・川上達也 理工学部 2年



B グループ



- ・糸永太一／Taichi Itonaga(理工学部 2年)
- ・八坂菜々子／Nanako Yasaka(教育学部 2年)
- ・玉城杏香音／Akane Tamaki(教育学部 2年)
- ・花田奈緒子／Naoko Hanada(経済学部 2年)
- ・桶本優／Yutaka Okemoto(芸術地域デザイン学部 1年)

【プログラム概要】

・期間

事前研修：12月22日～2月17日

オンライン研修：2月21日～3月17日

事後研修：3月23日



・オンライン留学先

英語＋グローバルスキルを組み合わせた ClassLive のプログラムに参加し、異文化体験やディスカッションをバーチャルに体験した。

・事前・事後学習

自分たちの考える幸せやデンマーク・フィリピンの歴史や文化に関して学習し、プログラム終了後、以下に述べる PBL の振り返りを行った。

・オンライン研修

英会話レッスンは、マンツーマン・グループレッスンから構成され、レベル別、ゴール別に作成されている。

PBL（課題解決型研修）では、デンマークとフィリピンの同年代の受講生にインタビュー・交流しながら、お互いの文化について学び、幸せとは何かについてディスカッションを行った。

【英語 classlive の内容】

1 コマ 25 分のマンツーマンレッスン、50 分のグループレッスンがあり、それぞれ 34 コマ分のチケットを配布され英会話力の向上を図った。期間中平均 3~5 時間、人によっては最大 10 時間英会話に取り組んだ。

・マンツーマンレッスン……フィリピン人講師とテーマを設定して一対一で会話する中で基本的な表現を学び、英語を話す度胸を付けることができる。

・グループレッスン……日本人に限らず、タイやベトナムといった同じく海外で英語を学んでいる学生と交流しながら授業を進める。海外の学生のよりリアルな意見や価値観に触れることができる。

【フィリピンの概要・文化】

・基本情報

- 国土
 - 298170 km² (日本の約 8 割)
 - 7107 つの島からなる
- 首都
 - マニラ (Manila、首都圏人口約 1348 万人)
- 人口
 - 約 1 億 900 万人程度 (2020 年フィリピン国勢調査、日本人口は約 1 億 2622 万人)
- 民族
 - マレー系が主で、他に中国系、スペイン系、少数民族
- 言語
 - 国語はフィリピノ語、公用語はフィリピノ語と英語
- 宗教
 - 国民の 83% がカトリック、その他のキリスト教が 10%
- 平均寿命
- 男性 67.4 歳、女性 73.6 歳 (2019 年)
- 識字率
 - 98.2% (2015 年)



・日本との関係

日本はフィリピンにとって、最大の輸出国であり (15.5%、2020 年)、両国間の活発な貿易、投資、経済協力関係を背景に、関係は極めて良好。2011 年 9 月に二国間関係を「戦略的パートナーシップ」に位置付け。

・フィリピンの文化

主食はお米で、テイクアウトや屋台も多い。女性の伝統衣装に Baro't saya という、植民地時代以前のフィリピンの服装に、植民地時代のスペインの服装を組み合わせたものがある。貧富の差が多く見られ、日本などに外国人労働者として働きに行くケースもある。多子社会で、家族や友人など身近な人間関係を大切にしており、研修を終えて、ポジティブな人が多い印象がある。

【フィリピン PBL 内容】

・全体的な流れ

一日目：フィリピン人メンターより、フィリピンについて学ぶ

二日目：同年代のフィリピン人学生へのインタビュー・交流、日本の食文化・祭りについて紹介する

三日目：フィリピンバーチャルツアー

四日目：フィリピンフィードバック

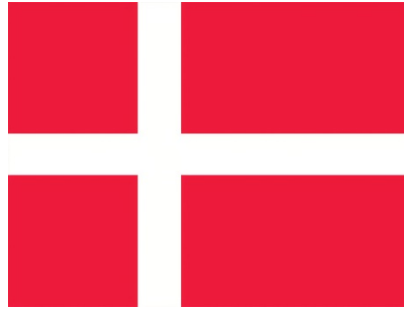
・詳細

一日目は、フィリピンの基本的な情報や、フィリピンが抱える、貧困、教育・医療の不十分、自然災害などについて学んだ。二日目は、同年代のフィリピン人学生にインタビューし、彼らが、家族や友人、健康、自分らしいライフスタイル、教育を受けることや仕事を大切にしていること、小さい頃から、笑顔・ポジティブでいるよう育てられることなど聞くことが出来た。

三日目のバーチャルツアーでは、首都であるマニラの観光名所やフィリピンの自然について知ることが出来た。

フィリピンフィードバックでは、日本とフィリピンの環境の違いや、国民性の違いをディスカッションした。





【デンマークの概要・文化】

・基本情報

- 国土
 - 43094 km² (世界 130 位)
- 首都
 - コペンハーゲン
- 人口
 - 約 580 万人程度 (日本人口は約 1 億 2622 万人)
- 民族
 - デンマーク人が大多数を占める
- 言語
 - デンマーク語が公用語、ドイツ語・英語を話す人も
- 宗教
 - 国民の 75%がデンマーク国教会(キリスト教徒)

・日本との関係

1000 年を超える歴史を持つ欧州最古のデンマーク王室と日本の皇室の親密な交流が長年にわたって続けられている。

また近代日本に農業や教育の分野で影響を与えた。現在は多くの日系企業がデンマーク

に進出している。



【デンマーク PBL 内容】

・全体的な流れ

一日目:デンマーク人メンターにより、デンマークについて学ぶ。

二日目:同世代のデンマーク人学生へのインタビュー・交流、日本の食文化・祭りについて紹介する。

三日目:デンマークフィードバック

四日目:デンマークバーチャルツアー

・詳細

デンマークの基本的な情報やデンマーク人にとっての幸せの 6 つの要素について学んだ。

「being together」「money」「health」「freedom」「trust」「kindness」がどのように幸せに結びついているかを知り、日本との共通点・相違点を考えることができた。また現地学生との交流では彼らの話す英語のレベルの高さを感じつつ、国について、幸せについての質問をすることで抽象的な事柄を英語で議論を進めた。

バーチャルツアーでは中継映像を通してリアルタイムのコペンハーゲンの様子を見ることができた。街並みや建物、そこにいる人々をより感じることで留学への気持ちを一層高める良い機会となった。



【報告書】

「フィリピン、デンマーク、そして日本」
医学部3年 18211047 小柳菜々穂

海外の人々との意見交換・交流を通して視野を広げるため、また、英語力を付けるため、参加させていただきました。研修を通して、高いQOLのために、何が必要なのか考えることが出来ました。フィリピンとデンマークについて調べ、交流する中で、今置かれている日本という環境についても考えを深めることができました。

以下、学んだ点を、英語・フィリピン・デンマーク・日本・幸福について述べます。

英語レッスンでは、マンツーマン・グループレッスンがあり、グループレッスンでは、日本人生徒以外に、タイやロシア人生徒と一緒に受けました。日本では、生徒と先生という、上下関係になりがちです。しかし、フィリピン人の先生は気さくで、先生と生徒である前に、対等な人間同士と考えられており、まず自分からオープンに挨拶することが求められました。このことは普段忘れがちなことでした。レッスンを通じて積極的にスピーキングする自信が付き、今後の英語学習の励みになりました。

フィリピンは、1946年に独立し、歴史が浅い発展途上国であり、教育・医療の不十分、貧困や格差、職が少ないなど多くの問題があります。それにも関わらず、世界

幸福度が第2位であるのは、インタビューから、彼らは家族(大家族かつ多子社会)やコミュニティなどとの強いつながりを持っているため、幸せを感じているのではないかと考えました。またフィリピンでは、幼い時から笑顔、ポジティブでいるように育てられるそうです。このことも、国民性として彼らの幸福度に影響しているといえます。一方、日本では男女とも生涯未婚率が上昇し、それに伴い合計特殊出生率も下がっています。日本においては、人と人とのつながりがますます必要になってくるのではないかと考えます。

デンマークは、税金が高い分、福祉制度が手厚く、全ての人が教育費無償、医療費無償です。今回インタビューしたデンマークの学生の中で、将来に不安を持っている人はほぼいないことは驚きでした。また、仕事一筋というよりは、親しい人たちと穏やかな時間を過ごす、Hygge(ヒュッゲ)を取り入れることが、彼らの幸福につながっています。日本とは、歴史や社会背景、政治体制が異なるため、教育費・医療費無償は要検討だと思いますが、大学生などの若者が、明るい将来を描くことが出来るような日本社会になってほしいと感じます。

特にフィリピンの環境と比較して、(もちろん日本にも労働問題や格差などありますが)日本は非常に恵まれた環境であることを再認識しました。日本には社会福祉制度や物資というハード面、豊かな

季節があることや食文化が多様といったソフト面があります。麺(ヌードル)一つにしても、うどん、蕎麦、ラーメンに加えてつけ麺、辛麺、そうめん、冷やし中華、カップ麺などがあるとすると、フィリピンの先生に非常に驚かれました。これらは日本の2000年以上の歴史の中で形成されたものであり、特に日本文化は世界に誇れるものではないかと思えます。

まとめとして、幸せと感じるかどうかは、個人的なものであり、経済・福祉・教育など外面のものに加えて、人間関係や笑顔でいること、ポジティブでいることなど内面も関わっています。日本に住む私たちが身近に出来ることは、周囲の人たちを大事にすること、笑顔やポジティブな思考を心がけることだと考えました。

最後になりましたが、この度のオンライン研修に携わって下さった佐賀大学の先生方、GG社の担当者様、フィリピンの先生方、グループのメンバーの皆さん、約1カ月間、大変お世話になり、ありがとうございました。この経験を活かしていきたいと思えます。

「周りの人を大切に、英語学習も大切に。」

Susap spring フィリピン・デンマーク
田中丸 歩

はじめに、私はこのプログラムに参加して本当に良かったと心から思っているし自分の中に新しいものや考えを多く取り入れられたと感じている。また、準備期間を含めると約2か月もの間、直接顔は合わせぬとも学習してきたフィリピン・デンマークコースの皆さんそしてクラスライブの先生方には感謝の気持ちしかない。

このプログラムを通して私が経験したこと、学んだことを「英語面」「グループワーク面」「国際交流を通しての幸せについての面」の3つに分けて報告していく。

「英語面」について
英語面について特に実感したのは、相手の言っていることを聞き取ることと自分の意見を正確に伝えることの難しさ。特にデンマークの人たちとのディスカッションの時、正直に言っるところどころの単語やだいたいどんな話題を話しているのかはわかっても全体的に何を言っているのかわかっていなかった。質問されても毎回聞き返していたし、優しくもう一度言ってもらってもよく理解できずなんとなくの回答しかできなくて相手にも申し訳なかったし悔しかった。クラスライブの通常授業の時は、相手の言っていることはわかっても、語彙力と文法力が足りずに自分の意見をそのままのニュア

ンスで正確に相手に伝えることがなかなか難しい時があった。またどうしてもシャイになってしまい失敗を恐れて発言をためらう時が最初の頃はあったが、ある時桶本優くんが単語と単語を上手くつないで頑張ったためらわずに発言している姿を見て勇気づけられプログラム中盤からは自分もシャイを少しは脱することができた。またプログラムが終わって

TOIFL ITP のリスニングのスコアも少しは向上していたので聞き取る能力は向上できたのかなと感じている。しかしまだまだ発音も悪いし発言中に言葉につまることも多々あったのでこのプログラムをきっかけとして今後の英語学習に力を入れていきたい。

「グループワーク面」について

今回のプログラムでグループの皆さんには本当に助けられたし、勉強になったし、私も自分ができる働きをできたので良いチームだったなと感じている。本当にメンバーのみなさんは英語面でもグループ活動の面でも優秀で尊敬の域まで達していた。小柳さんと達也さんはグループラインで積極的に発言してみんなの意見をまとめたり、タスクを提案したりして活動をスムーズに行える環境を自然と作ってくれていた。

西田さんと伊賀さんはアイデアマンで、特に伊賀さんはさすが地域デザイン学科と言わんばかりに自分たちとは違う角度からアイデアを出してくれていてすごいなと感じたし、自分の考えにも影響を与えてくれた。特に小柳さんや達也さんのようなみんなを上手くまとめてくれる役

割はグループ活動をする際必ず一人は必要になるポジションで、私は一年生の農学部グループ授業でその存在が欠けていて、かつ自分もなることができずに苦労した記憶があるので今後のグループワークでは今回の小柳さんたちのような立ち回りを参考にして自分がグループの核になれるように努めていきたい。

「国際交流を通しての幸せ」について

フィリピンの先生方は本当に明るくて楽しい雰囲気の人たちが多かった。彼らの幸せを構成する要素のキーワードは「笑顔」「家族」であった。どんな時も笑顔を忘れないことポジティブシンキングでいること。また家族を大切にすること、働くのも勉強するのも家族のためという言葉は自分自身の将来の為に勉強して自分の幸せの為に将来働くつもりでいた私には胸に響くものがあった。事前研修の「幸福とは何か」の中で哲学者アダムスミスが会話と社交が幸福を取り戻す最も強力な救済措置と記していたが、家族や周りの人を大切にすることは彼の考えにつながるなと感じた。また、周りが幸せであることは自身が幸せになる条件であるならば、理にかなっている考えでもあるなとも考えた。ここまで考えた時、「家族のため」「周りのため」とうたっておいて結局は自分の為に行動しているのではないかと疑問にも思ったが、そこまで考えて人は人に優しくしていないとも思う。自分にとって利益不利益を超えて他人に接することは他の生物と人間の大きな違いの一つだと思うしそれはとても美しいと感じる。フィリピンの方

たちの考えは本当にリスペクトできるし、絶対自分の中で今後取り入れたいものだと思っている。しかし一つだけ私は知りたいことがある。今回インタビューをさせてもらった先生やプログラム参加者やパソコン環境が整っており、最低限度の生活と教育を受けてきた人たちだったが、生活が困難で明日のことでさえどうなるのかわからないようなフィリピンの人たちも果たしてこのような考えをもっているのか、また今幸せなのだろうかという疑問に思った。

高校時代、私は授業で「バスーラ」というフィリピンのスモーキーマウンテンと呼ばれていたゴミ山で暮らす人たちのドキュメンタリー映画を観たことがある。そこで暮らす少年少女たちは当たり前のように学校に行かず児童労働をしていた。この映画のことは最近高校時代の友人との会話の中で思いだしたのだが、その映画で観たダンスをする子供たちの目の奥が笑っていないような顔の表情が社会に対する絶望や自分の定められた運命を悟っているようで幸せとは程遠いものであったように思えた。スモーキーマウンテンは今現在撤去されてその土地に住民のための大型団地が設置されたと聞いたが今なおフィリピンには生活の為に児童労働を強いられている現実は変わっていない。親はそこに愛はあったとしても結局は労働力として子供を産んでいる。インタビューしたフィリピンの方は家族の為に働く、勉強するといっていたが、そのような子供たちは家族の為に生まれ

てきたのだろうか。彼らにとって幸せとは何なのか。自分の幸せの在り方もまだ定まっていないのに改めてプログラムを通してフィリピンの負の部分の話を聞くと気になり始めた。この答えは彼らにはわからないので今後の人生で彼らに尋ねることができる機会が巡ってくればまた考えてみたい。

デンマーク人の家族や友人を大切にしている時間を設ける時間の過ごし方や心の持ち方を表すヒュッゲという言葉はすごく素敵だなと思うと同時にいつも課題や仕事や遊び時間に追われて生活している日本人に家族を大切にすることを思い出させ大切にできる可能性がある言葉だなと考えた。またデンマークの人達が考える幸せの構成要素6カラーは事前研修時に班員の皆さんと考えと似ていて共感できるものが多かった。しかし信頼関係の部分だけは決定的に異なるものがあり、デンマークのほうが教師や目上の人との距離が近いようだ。これは文化の違いで、マネできるものでもないが、マネする必要もないと私は考えている。日本語特有の相手に敬意を表す敬語という文化は日本人の謙虚や勤勉の性格の表れだしむしろ誇れるものと考えられる。敬語を使うことで相手との距離感を産んでしまうかもしれないが、適切な距離感や環境を作らないことはトラブルの元で幸福は遠のいていくと考える。

「SUSAP で得たこと」

教育学部初等教育2年 西田彩乃

今回、デンマーク・フィリピンプログラムに参加して、英語と幸福の面で感じたこと、達成したことがたくさんあり、国内にいなから効果的な英語学習、経験ができるのだと実感しました。

まず、英語の面に関して、小学校から長い間英語を学習してきましたが、日常生活で実践したり、自分の実力を確かめたりする機会はあまりありませんでした。Class Live のレッスンでは、英語で話さなければならぬ状況が作られていたため、自分を追い込んで英語を使うことができました。最初は緊張と不安からうまく話すことができませんでしたが、回数を重ねるごとに相手の話に反応したり、会話を続けたりする余裕ができました。焦らずに別の言葉で言い換えること、ジェスチャーを使うことに加え、授業で学んだ自分の意見を分かりやすく伝える PREP、聞き手のリアクション RRR、実践的な英語表現は、会話をするうえでとても有効でした。お互いの国について知っていることや共感できることについて話したときは、一気に距離が縮まった気がして、とても嬉しかったです。

そして、様々な国の方と話すことができたので、発音や速度、声のトーンなど各国の英語の特徴を感じました。人によっては聞き取りやすい、聞き取りづらいことがありましたが、より実践的な英語力を身につけるため、とてもいい経験になりました。

このプログラムに参加して、語彙不足や、文法の正確性が低いことから言いたいこと

を完全に伝えきれなかったという課題も見つかりました。英語での会話をさらに楽しめるよう、今後は使える語彙を増やすこと、正しい文章を作ることに重点を置いて学習に取り組んでいきたいです。

次に、幸福の面に関して、国によって幸福を構成する要素は異なるということがわかりました。デンマークでは、家族や友人と一緒に過ごすこと、お金、健康、自由、信頼、思いやりという6つの要素、フィリピンでは、ポジティブに考えること、笑顔でいることが幸福に影響していました。国ごとに社会や文化の違いはありますが、幸福度の高い2つの国の共通点として、持っているものを前向きに捉えるということが挙げられると思いました。日本に住む私にとって、デンマークの高税やフィリピンの貧困、教育、医療問題は幸福とはかけ離れたものでしたが、福祉での見返りを考慮すると高税はデンマーク人にとって苦ではないこと、フィリピン人は国の現状を認め、笑顔でいることでつらいことにも打ち勝とうとしていることをインタビューを通して知りました。そして、自分たちがすでに持つ家族や、友人などを大切にしていると思いました。

日本に住む私たちが幸せになるためには、他国の取り組みを参考にすると同時に、既に持っている日本の良さや現状を受け入れ、幸せを見出していく必要があると感じました。プログラムに参加する前は、曖昧にしか考えられなかった「幸せ」という概念について深く考え、日常生活を見直すきっかけとなりました。

短い期間でしたが、英語に関する課題や自分なりの幸せの形を見つける、貴重な経

験となりました。ありがとうございました。

「考え方が変わった SUSAP 研修」

芸術地域デザイン学部

地域デザインコース 1年 伊賀滴

今回、研修で英語力のレベルアップ（特にスピーキング力）と自分にとって幸せとは何か明確にすることを目標に活動しました。短いようで長い1ヶ月間でしたが、研修を通してたくさんのご縁を得ることができました。私は英語面と幸福面から2点学んだことを述べたいと思います。

まずは英語面についてです。英語面で一番感じたことは、ただ英語を話せることが良いわけではないということです。以前の自分は英語を喋れるようになることがゴールだと思っていました。しかし、その考え方は間違っていたと気付かされました。PBLでのインタビューでフィリピンとデンマークの人々と交流し、2国の英語には大きな違いがありました。デンマークの人々は、早口でとても長い分量話し、理解するのが非常に難しかったです。フィリピンの人々は、ゆっくりハキハキと英語を喋ってくれとても理解しやすい英語でした。英語はどれも一緒なのではなく、国による英語の多様性を感じました。それに加えフィリピンの人に共通しているのが笑顔で会話してくれるということです。ただゆっくり話せばいいのではなく、ジェスチャーを混ぜ、笑顔で話して

れることで理解しやすくなる環境が作り出せるということがわかりました。笑顔で会話してくれることで話しやすい、間違えても何の問題もないよと言ってきているようで、自分から積極的に話せることができました。これは英語だけに限らず関係なくどんな言語を喋る上でも重要なことのように感じます。目標であったスピーキング力の向上は今回実現することができました。しかし完全にスピーキングできるということがゴールというわけではなくより相手に伝わりやすくするため聞いてもらえる環境を作り出すにはどうすれば良いかということもわかりました。

また英語力向上の秘訣を見つけました。それは英語を媒介に楽しむことです。海外ドラマを見たり、英語の音楽を聴いたり、英語でゲームをしたり、毎日少しずつ、楽しみながら英語に触れることで英語を学ぼうというやる気生まれると感じました。楽しいことは続けたいと思います。またどんどん詳しくなりたいと思うはずで、レッスンを受ける中で、次のレッスンではこんな話をしたい！と思い自分から、どう英語で伝えようかななどを考える自分がおり自分で自分に驚いていました。実際にその話ができるのもっと話したくなり、モチベーションになっていました。

また英語を英語で学ぶ重要性を感じました。グループレッスンでは文法を英語で学ぶ時間がありました。これまでの英語学習ではインプットとアウトプットの間に日本語があったため、日本語と英語のニュアンスの違いがよくわからないところをそのままにしていました。英語を

英語で学ぶことによってこういう場合にこのフレーズを使うのかな分り、そういうものとしてスッと頭の中に入ってきました。また似たようなフレーズで使い分けることができなかつた言葉もどういった場面で使われているか知り、それをまた自分が使うことでさらに理解を深めることができました。ほとんど毎日レッスンで英語を喋っていたため、英語でものを考えるようになり、理解が早くなりました。

次に幸福面についてです。日本人は将来の幸せを実現するために現在の幸せを我慢するのではなく、現在の幸せも大切にする必要があるということを感じました。デンマークの人々は十分な福祉制度が整えられていることから、将来の心配が少ないということ。フィリピンの人々は深刻な国内の問題の中でも生き抜いていけるように今を楽しく生きる国民性を持っているということ。それぞれの国の内情は全く違うものの、両国には今を楽しんでいることが共通していました。日本人は現在の職をリタイアした後にできる限り豊かな生活ができるように今は辛抱するという人が多いように感じられます。このことが日本にはない幸せの形だと感じました。しかし、今回学んだことをそのまま日本に採用しようとしても、日本独自の国民性があるため、採用してもうまく機能するのか、そもそも受け入れられるのかといった問題もあります。こうした問題はありますが日本人はもう少し現在の幸せに目を向ければ幸福度は上がってくると感じました。

また日本人に採用できる方法を探るために、より他の国とも交流し、見つけていけないといけなかつた感じました。英語でのコミュニケーションは非常に難しいですが、研修を通して実際にその国の人と喋ることで、インターネットで見つけることができない、生の声を聞くことができました。

世界で戦争や災害が起きている現在、幸せは保証されたものではないのだなとひしひしと日々感じています。ある日いきなり、目の前から消え去ってしまうかもしれない。奪い取られるかもしれない。当たり前な幸せって存在しないと感じました。そんな現代だからこそ、自分の中で幸せになるにはどうしたらいいかという方法を知っておくことは必要不可欠だと思いました。困難にぶつかったとき今回のプログラムで学んだことがきっと活かされると思います。プログラムの事前学習で「幸せとは何か」という本を読みました。その本には幸せは積極的に追い求めるものではないと書かれていました。自分のペースで少しずつ小さな幸せを実現していきながら、周りに感謝し、笑顔を忘れず幸せの方法をまた新たに見つけていきたいです。

今回研修に参加して英語を喋る自信を得ることができました。その自信が無くならないうちに積極的に英語を使う機会を見つけ、どんどん使っていきたいと思います。今まで英語を喋ることに躊躇し、今回のプログラムに参加するのにもかなりの不安がありましたが、プログラムを通して、不安は多少なりとも緩和され、

もっと他の国の人とも交流したいと思うようになりました。勇気を振り絞って参加してよかったなと感じています。このプログラムを運営していただいた方々、共に1ヶ月間頑張った皆さん本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございます。

「一度は諦めかけた留学」

理工学部 理工学科
知能情報システム工学コース
2年 川上 達也

私は今回 SUSAP2022 Spring に参加して、貴重な経験を積むことができた、有意義な春休みを過ごすことができたと感じた。約1か月間、普段使い慣れていない言語でのディスカッションの難しさ、英語で会話することの楽しさを毎日肌で体験できたからである。

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、自分の語学能力、特にスピーキング能力を高めたいと思ったからである。しかし、当時はなかなか今回のプログラムに参加する一歩が踏み出せずにいた。なぜかという、現在のコロナウイルスの影響で留学が遠ざかり、留学そのものを諦めようと考えていたからである。そのような状況ではあったが、今回のプログラムは有意義な経験ができるチャンスだと思い、自分の殻を破って参加を決断することに至った。

今回の研修では主にフィリピン人講師の方とのマンツーマン・グループセッションを通して英語力の向上を目的とする Class Live 講義、フィリピン・デンマーク人の学生、講師の方とのディスカッションを通して「幸せとは何か」というテーマについて考えることを目的とする講義

を受講した。実際に英語で長時間ディスカッションしたり、数々のプレゼンテーションを準備したりと正直ハードスケジュールであった。しかし、毎日英語で会話するにつれて徐々にスピーキング・リスニング能力の向上を感じることができた。



Class Live 講義では様々な先生とのマンツーマン・グループレッスンを通して英語で交流することの楽しさを知ることができた。今までは、英語でのコミュニケーションは難しく、自分の意見を伝えることで精いっぱいになり会話に疲れるだろうと想像していた。実際、プログラムを始めた当初は英語に慣れていなかったため、正しい文法を使わなければ伝わらないと思っていたり、発音が正確でないといけな思っていたりというように堅苦しい考えを抱いていた。しかし、講義を重ねていくにつれて、伝わりづらい時は別の言葉に言い換えること、発音が若干間違っても文脈で読み取ってくれることが多いことなど自分が想像していたよりもハードルが高いものではないと知り、

気づけば英会話を楽しむレベルにまで成長していたため自分でも驚いていた。

また、Happiness 定義の議論を通して、デンマーク人は税金が高い代わりに福利厚生が整っていること、健康であることを大切にしていること、家族・友人を大切にすることなどが彼らを幸せにすると学んだ。また、フィリピン人は貧困・医療・災害など様々な課題がある中、周囲の人とのつながりを大切にすること、何事も前向きに考えること、笑顔を絶やさないことなどが彼らを幸せにすると学んだ。私はこれらの意見を聞いて、自分が幸せになるために周りの人との関係を大切にすること、ポジティブシンキングを心掛けること、笑顔を忘れないことを自分の生活に取り入れようと思った。

最後に、私は今回の SUSAP2022 Spring に参加したことで数々な自分の糧になるような貴重な経験を積むことができたこと改めて感じている。また、これからの留学に対するハードルが下がったため一度は諦めかけていた現地留学も機会があれば積極的にいきたいと思うきっかけになった。これからの日常生活においても今回の研修で得た経験・知識を生かしていきたいと思う。

見つめ直すこと

理工学部メカニカルデザインコース 2 年

糸永太一

私が SUSAP に興味を持ったのは 2 年生の夏でした。元より留学や国際交流系の活動に関心がありましたが、Speaking に自信がなく英語を話すことにかなり億劫になっていました。英語の授業でも積極的に英語が使えていませんでした。(とても勿体無いことをしたと思っています)しかし私は今後研究留学を考えており、そこでは高い英語能力が必要ですし、それに加えて数人の友人が春夏の SUSAP に参加していて、良い噂を聞いていたためそれらを踏まえて参加の意思を固めました。またより英会話を鍛えられると感じ、武者修行のつもりでこのデンマーク・フィリピンプログラムに参加しました。

タイトルにもある通り、今 SUSAP は「見つめ直す」ことの連続でした。対象は自分自身の言動、価値観、考え方、そして母国日本について。私達のプログラムは事前研修、ClassLive、PBL、事後研修から成っておりそれら全てに見つめなおす機会が与えられていました。SUSAP という一種の非日常だからこそ自分についてここまで考えることができたのかもしれませんが。自分にとっての「幸せ」なんて考えたことすらありませんでしたし、自分の国がどう見られているかを直接聞くことも初めてでした。また異なる価値観に触れながら自分について振り返るというのは強烈な体験でした。ここでは書きませんが英語という慣れない言語を主に使うことで自分の弱さがボロボロと出てきました。

「見つめ直し」をすることでハッキリと浮かび上がったのは「違い」でした。普通ならば「同じ人間である」や「1つの地球で生きている」のような類似性に関する感想が出てきそうなところですがそうではなかった。私は些細な内容の会話しかできませんでしたが、そんな会話の中でさえも自分が想像していた以上に日本人と考え方や価値観が違うことを痛感しました。昨今ロシアによるウクライナ侵略に関するニュースが絶えません。町が焼かれ市民や双方の兵士が傷ついている現実がとても悲しく思います。日本でも安全保障関係の議論の高まりを感じます、そして私が将来就きたいのはこの分野です。日本の防衛政策に関わり、平和の維持に貢献したいと考えています。自衛隊や防衛省と聞くと戦うための準備というイメージがあるかもしれませんが未然に防ぐための努力だと私は捉えます。そしてその防ぐための大前提にあるものが相互理解です。使っている言葉、地域、文化が違うだけで自分たちとどれだけ異なるのか、すれ違いやすいのかを理解しなければなりません。色んな国の人と対話し、文化に触れて「違い」1つでも多く体感すること、これが私に必要なことだと再確認しました。

1 ヶ月を通して貴重な体験だったと思いますが最後の 1 週間が特に成長できた時間でした。偶然(体調不良)と必然(計画性の無さ)が重なり 1 日に英語を話す時間が 10 時間近くになったのです。日本語よりも英語で話す時間の方が長いことなど経験したことが当然ありませんでした。まるでシャワーを浴びるように英語を聞いて話しましたが、これのお陰で自分の中の英語に対する感覚を変えることができました。あくまでも「使

う」ものだったのが「話す」ものになりました。そして話すことが純粋に楽しいと感じることができました。言語化が難しい感覚なので正しく表現できているとは思えませんがかにかく1つ壁を破った気がします。今回の研修では何度もグループメンバーに助けられました。自分が体調不良の時に発表の準備を進めてくれたり、授業の中で何度もアシストしてもらいました。また「幸せ」という漠然としたテーマについて真剣に議論することができたのもとても嬉しい時間でした。一緒に取り組むことができ、幸せでした。

最後になりますが今回の SUSAP に関わって下さった大学の先生方、GG 社、JTB の担当者様、ClassLive の先生方、交流先のデンマーク・フィリピンの学生さん方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「国内での外国語習得」

教育学部 学校教育課程

小中連携教育コース 2年 八坂菜々子

今回私はデンマーク・フィリピン研修を通して3か国での幸せに対する価値観を共有し自国の幸福感を見つめなおすという大きな目標とは別に、オンライン留学というコロナ渦で生まれた新しい外国語習得の手段である今回の SUSAP 研修が、どのように外国語習得にいい影響を与えるのか、その実態を知るということも個人の目標に設定し取り組むことに決めました。このような目標設定をした理由としては、私自身教育学部で英語科専攻ということもあり、英語

科教員になる一つの過程として英語圏への留学を視野に入れていました。しかし、コロナ渦ということで渡航自体厳しいものになり、在学中での留学の保証が出来ないため英語習得に不利になると考えていました。そこで国際課の皆さんに相談したところ SUSAP 研修があることを知り留学本番に向けてのいい経験になると勧めていただいたことがきっかけで本研修に参加することが出来ました。

結論から述べると、国内でも外国語習得は可能だということに気付くことが出来ました。これまでは現地で実際の生活の中で英語を習得することが言語習得の最上だと考えており、その考えが大きく変わったわけではないですが、オンラインであっても話す、聞くという技能をフルに使うことで座学よりは大きな効果が得られることを自身で体感することが出来ました。さらに、この研修の素晴らしい点として、デンマークとフィリピンの二か国の話す速さやイントネーションなど英語圏でも全く異なる2か国の人々と話すことが出来たことです。これは1つの国にしか行くことのできない実際の留学には出来ない点ではないかと考えます。このような発見は英語学習者としても、未来の英語教師としても大きな収穫であったように思います。

さらにこの研修では World Happiness Report を基に3か国で幸せについての考えを共有する交流の場がありました。いくつかの PBL で各国の状況や人柄を知り、日本との違いを知ることによって日本を知ることにもつながりました。そこで気付いたことは、

“Happiness is a choice”であるということです。この言葉はフィリピン人メンターの Eli 先生からいただいた言葉です。どれだけ幸せでも不幸な理由を探せばきりがないという意味だと私は捉えました。この言葉を発することが出来るのも、フィリピン人の精神としてどんな時でも笑顔を忘れないというような人柄からくるものだと感じ、この言葉を聞いてからは我々のグループも日本人の幸福度ランキングが低い理由を探すのではなく、私たち日本人の人柄の幸福要素を探す方向にシフトチェンジしていきました。最終的なグループの結論としては私らしい幸せを選択するというものに落ち着きましたが、これは事前研修時点での私の考えからは想像できないものでした。自分より優れていると順位づけられているものを羨望し模倣すること自体悪いことではないですが、その行為自体がいい影響を及ぼすかどうか考えないと現状に納得できず不幸せの選択をすることに陥る可能性があります。幸せの追求も難しいと感じました。最後になりましたが、SUSAP 研修を通してお世話になったすべての方々に心から感謝申し上げます。留学本番に向けて日々精進していこうと思います。

SUSAP での 1 カ月」

教育学部 2 年 玉城杏香音

春休みの SUSAP オンライン留学は、フィリピンやデンマークの人々と議論しながら「幸せとは何か」について考えたり、オンライン英語研修で英会話力の向上を目指す充実したプログラムでした。このオンライン留学を通して、たくさんの刺激を受けることができ、自分の成長を感じることができた一か月でした。

私が今回のオンライン留学を希望した理由の一つとして英語力の向上が挙げられます。クラスライブを受け始めた時は、英語を話すことへの自信のなさから緊張や不安があったり、正しい文の英語を求めすぎて言葉を発するまでに時間がかかったりして、上手く自分の考えを伝えられずにいました。しかし、クラスライブでの交流を重ねていくうちに、もっと自分の感情や考えを伝えたいという気持ちが大きくなり、綺麗な英語で会話をするよりも自分の使える英語でどうにか伝えたいという思いが強くなりました。すると、英語を話すことへの抵抗はほとんど消えて先生方との会話を楽しめるようになり、さらにもっとお互いが楽しく会話できるように相槌や質問を入れたり、間をあけないようにしたりする工夫をするようになりました。また、会話の時には自分のターンになったら必ず考え述べないといけなかったので自分の意見を持つ必要性もとても感じました。

この 1 カ月は「幸せとは何か」についても多く思考を巡らせた期間であり、事前研修の時点で私たちのグループが導き出した幸せの定義は『自己完結+周りの評価』でした。また、その定義にある『周りの評価』と

いうのは、他人の視線を気にしやすい日本人ならではの価値観ではないかと考えていました。今回の PBL で行ったデンマークやフィリピンの学生との幸せについての交流を通して、デンマークには幸せの基準となる 6 つのカラー(家族と共に過ごすこと、お金、健康、自由、信頼、親切さ)、フィリピンには幸せを支える秘訣(家族、笑顔、明るさなど)があることを知り、私たちのグループでは各国の国力以外の部分に焦点を当てて日本のランキングを上げるために必要なことを議論しました。その結果、デンマークにおける国民と政府や友人同士での信頼、フィリピン人の明るい人柄などのパーソナリティが彼らの幸せを支えている秘訣であり、それらが周囲との深い信頼関係や明るい人間関係を生み出すことによって、『周りの評価』を気にする日本人とは異なって自分らしく振舞うことができていると思いました。また、デンマークやフィリピンの人々が幸せとは何かと聞かれて真っ先に「家族だ」と答えていたことに私は驚きました。私にとって「家族」は大切な存在であることは確かですが、家族と一緒に居れる環境が当然という感覚であったため、一緒に時間を過ごせる大切さを自覚していない自分に気づき恥ずかしく思いました。当たり前感謝することを大切にしたいと思います。最後に、周囲を気にしすぎる日本人には日本人なりの良さがあり、日本人の弱みは見方を変えれば強みにも変えられるものであると思います。デンマークやフィリピンの人々の良さを真似したり、幸せランキングを気にしたりするのはではなく、彼らの良いところを参考にしながら日本人らしく自分らしい幸せを考えることが素敵な幸せのあり方

ではないかと思います。

このオンライン留学を通して、英語を共通言語としてたくさんの人たちと関わることの楽しさを知ったり、デンマークやフィリピンの人々との交流をするたびに些細な日本との違いが面白かったり、また海外からみた日本の良さや誇らしい部分を知る機会が多くあってとても濃い1カ月でした。この経験を更なる英語力の向上と実際の留学を目指して活かしていきたいと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございます。

「挑戦することの大切さ」

経済学部経済法学科2年 花田奈緒子

オンライン留学を終えた今、私が感じているのは、プログラムをやり遂げたことに対する満足感と疲労、そして参加して本当によかったという思いです。このプログラムに参加したことで、私の2年間の学生生活の中で、最も密度の濃い、充実した春休みを過ごすことができました。グループのメンバーを始め、今回の機会を与えてくださった石松先生、国際課の皆様、GG社のスタッフの方々に深く感謝申し上げます。

私がオンライン留学を申し込んだのは、「焦り」からでした。入学と同時にコロナ禍となり、1年目の授業はほぼ100%オンライン。2年生になっても、人数の多い授業が多いという学部の特性上、9割近くの授業がオンラインのまま。大学に行かず、同級生にも会えない、そんな大学生活を送る間に、入学当初に抱いていた留学し

たいという気持ちや語学に対する思いはどんどん薄れていきました。

しかし、2年生になってしばらく経ち、これでいいのだろうかと考えるようになりました。入学前は長く感じていた大学生活が、実際はあっという間に過ぎていったからです。このままいけば、気が付いたときには大学生活が終わっているのではないか。そんな不安がふと、脳裏をよぎりました。そこで、残りの学生生活はもっと能動的に動くことを決意しました。そして、国際交流イベントやキャリアセンターが主催する全学部対象のプログラムに参加してみたり、冬休みに上海の華東理工大学のプログラムに参加したりと、少しずつ活動の範囲を広げていきました。私はあまり社交的なタイプではありません。同じ学部の友人となかなか対面で会う機会がなかったため、様々なイベントに1人で参加しなければならないことが、最初はとても恐怖でした。しかし、勇気を出して参加したことで、そこでしか得られない貴重な体験ができ、見識が大きく広がるとともに、学部を超えた友人を作ることができました。

今回のSUSAPのプログラムも、その流れで思い切って応募してみたものです。専門と就職試験の勉強のため、私はもう今後長期の留学に応募することはできません。そんなときにSUSAPの案内を見て、留学したいという想いを叶えられる最後のチャンスかもしれないと感じ、参加を希望しました。また、同時にオンライン英会話をたくさん行うプログラムでもあったため、勉強のモチベーションを失って下がってしまった英語力を向上させる機

会にしたいと考えました。

そうして始まったオンライン留学は、事前学習から始まり、Class Liveを使った68コマの英会話レッスン、デンマーク人・フィリピン人とのディスカッションを通して“Happiness”について考えるPBLの授業、複数のプレゼンテーションと、盛りだくさんの内容で、日々課題をこなすのに必死でした。

しかし、そうやって過ごしているうちに、最初は考えていることが上手く英語にならなかつたり、間違ったニュアンスで伝わってしまったりと、悔しい思いをすることが多かった英会話のレッスンも、回を重ねるごとに英語を使って話すことに慣れ、途中からは講師の先生とジョークを言い合ったり、個人的な話で盛り上がったりと、会話を楽しむことができるようになりました。



また、相手の言っていることが分からず聞き返すということが後半はほとんどなく、リスニング力が上がったことを実感しました。

PBLでは、最終的には幸せとは何かについて、自分たちらしい答えに辿り着くことができたと思っていますが、デンマー

ク人とフィリピン人、それぞれの語学力やディベート力、考え方の違いに圧倒され、あまり深くディスカッションができなかったため、もっと深い議論ができるように語学力を高めたいと強く感じました。

プログラムのスケジュールは非常にきつく、思うようにいかないことや、体がついてこなかったことも多々ありましたが、その分、他では得られない貴重な経験を得ることができました。応募して本当によかったです。この経験を今後の人生にも活かし、また、積極的に行動することの大切さを忘れずに過ごしていきたいと思えます。

21121108

桶本優

今回の研修では、想定外の収穫がありました。幸せについての考えが思っていた以上に深まったことです。SUSAPに参加したことの主な目的は、英語を使ったコミュニケーション能力の向上でした。

「幸せとはなにか」というテーマについては、この目的を果たす過程で、同時に考えることもできる程度で考えていました。しかし、事前の研修で、参考図書を読み、それを通して日本のメンバーと話し合うだけで、幸せについて深く関心を持ちました。

「幸せとは何か」というテーマは、普段はあまり考えることはないですが、誰しもが考えることができ、考え始めると延々と考えてしまうものでした。この性質から、異文化の方とそれについて話すと、さらに深い議論になりました。研修を通して、日本チームは、身の回りにある小さな幸せを見つめ直し、穏やかにより幸せな状態を追求することを目指すことにしました。このことに気づくまでの過程で、その半分程度は達成しており、これから私たちは焦ることなく幸せになるために何をしたいか考えることができます。「幸せとは何か」というテーマはそもそも、それについて改めて考えてみるということに大きな意義があるものでした。

さらに、テーマに惹き込まれることで、手段としての英語の必要性をより感じるようになりました。当然のことではありますが、英語でのコミュニケーション能力を高めるにはその経験を重ねることの他に方法はないということに改めて思い知ら

されました。数週間の classlive レッスンで、学校で教わるような英語の能力が上がったとは思えません。しかし、英会話での「コツ」を着実に身につけていきました。どのような相槌を打つか、自分の持っている語彙・表現の中からなにを選び使うか、自分の発言・態度を相手はどう捉えているか、など。言葉を一言交わすだけで、たくさんの判断を要しました。はじめは相手に気を遣わせてしまったり明らかに話が噛み合っていなかったりすることが多かったですが、少しずつ自然な会話ができるようになり、研修の後半では冗談を言い合えるようにもなりました。

実り多き研修だったと考えています。英語でのコミュニケーション能力上がったことと、それ以上に自信がつけました。加えて、幸せについて自分の中でしっかりと考えを持つことができましたし、研修を受けていくうちに幸せになっているように感じました。それは、今ある幸せに気づけたことと、多様に人と関わることができたことが影響しています。色とりどりの考えに触れ、たくさんの刺激を受けることができました。こんな機会に恵まれた私は十分に幸せ者です。今回の研修に携わってくださったすべての人に感謝します。

